

第 75 回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会
～ 知ろう・語ろう・取り組もう～
一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次） 第 2 回報告

研究協力者 秋山 有佳（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
研究協力者 篠原 亮次（健康科学大学健康科学部）
研究代表者 山縣 然太郎（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の際に、「健やか親子 2 1」に関する自由集会を平成 13 年より毎年開催してきた。平成 27 度 4 月より新たに「健やか親子 2 1（第 2 次）」が開始されたことに伴い、自由集会でも新たに「～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次）」と題し、第 2 次の取組について知り、語り合う機会とすべく当集会を企画し、今年度はその 2 回目であった。

今回は、今年度の夏に実施された平成 28 年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）「平成 28 年度『健やか親子 2 1（第 2 次）』と母子保健計画の策定と評価、母子保健情報の利活用についての研修」（以下、平成 28 年度研修会）のダイジェスト版として、費用をかけずに母子保健計画を策定する方法や、研修会でご講演いただいた実際に母子保健計画を作成した自治体の作成方法等を紹介した。

なお、今回の参加者は 30 名であり、参加者は熱心に話を聞き、活発に質問や意見が交わされていた。今回の自由集会の内容が、各自治体の今後の母子保健計画策定や、母子保健事業推進の一助となることを期待する。

A. 目的

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の自由集会に、「健やか親子 2 1」が開始された平成 13 年より「知ろう・語ろう・考えよう！ “一歩先行く” 健やか親子 2 1」と題する集会をシリーズ化し毎年開催してきた。昨年度からは「健やか親子 2 1（第 2 次）」が開始されたことに伴い、自由集会でも引き続き「健やか親子 2 1」に関する情報の共有および意見交換ができる場を設けることとし、新たに「～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次）」と題した集会を開催した。

今年度は、その第 2 回目であり、今年度の夏に実施された、平成 28 年度研修会のダイジェ

スト版として、費用をかけずに母子保健計画を作成する方法や、平成 28 年度研修会でご講演いただいた実際に母子保健計画を作成した自治体の作成方法等を紹介し、各自治体での今後の母子保健計画策定への一助とすることを目的とした。

本稿では、平成 28 年 10 月に実施した第 75 回日本公衆衛生学会学術総会における自由集会について報告する。

B. 方法

本自由集会は、平成 28 年 10 月 26 日（水）～28 日（金）に大阪で行われた第 75 回日本公衆衛生学会学術総会の 2 日目に申し込みをした。開催日時および場所、予定した内容は以下

の通りである。

【日時】

平成 28 年 10 月 27 日（木）18：00～19：25

【場所】

新梅田研修センター 5 階 501 号室

【内容】

座長：山縣然太郎（山梨大学）

篠原 亮次（健康科学大学）

演者：山縣然太郎（山梨大学）

篠原 亮次（健康科学大学）

第 1 部（山縣）

・母子保健計画の概要とポイント

第 2 部（篠原）

・市区町村母子保健計画の実例と乳幼児健診情報システムの紹介

第 3 部

・質疑応答

・まとめ

（倫理面への配慮）

本研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って実施した。本研究は、母子保健計画の位置づけや策定方法等の講義を行うものであり、個人情報扱わない。また、講演では 2 つの自治体の母子保健計画策定について紹介したが、このことについては事前に各自治体の許可を得ている。

C. 結果

1. 参加者

当日の参加者は 30 名であった。以下に参加者の内訳を示す。

【内訳】

・保健所職員：2 名 ・市町村職員：3 名

・大学関係：21 名 ・企業：3 名

・病院：1 名

2. 発表内容

日時と場所は予定通りに実施された。当日の実施内容の詳細を以下に示す。

第 1 部（山縣）

『母子保健計画の位置づけと策定方法』と題し、以下の 5 点について講演した。

- 1) 母子保健計画をどのようにとらえているか
- 2) 母子保健計画の策定にあたっての課題
- 3) 母子保健計画の作成を明日から始めるには
- 4) 「健やか親子 2 1（第 2 次）」のポイントは？
- 5) 健やか親子とは？4 つの旗

- 1) 母子保健計画をどのようにとらえているか

母子保健計画を立てる必要性と他の計画に盛り込まれているか否か、等の質問を会場に投げかけ、参加者自身に考えてもらった。さらに、地域の健康計画の策定に関わった経験の有無や、母子保健計画を策定していない理由についても問いかけ、参加者同士で情報交換の機会を持った。

- 2) 母子保健計画の策定にあたっての課題

作成方法、PDCA サイクルの方法、リソース等について、参加者自身の自治体について、何ができて、何ができないのか、また何が難しいのか、そして、評価はできるのか、等について検討をしてもらった。

- 3) 母子保健計画の作成を明日から始めるには

母子保健計画を作成するために、優先順位や作成の方略、作成することで得るもの等を各参

加者で検討してもらった。そして、簡単にできる母子保健計画の7つのステップとして、以下の7点を示した。

- (1) ひな形の決定
- (2) 重点項目の決定：地域の特徴
- (3) 重点項目の現状分析
- (4) 計画シートの作成
- (5) 目標シートの作成
- (6) 他の必要項目を決定し、計画シート、目標シートはコピーペースト
- (7) PDCA サイクルの日程

さらに、大切なこととして、母子保健の視点を持つこと、関係者が共通の認識を持ち、思いを共有し、次の担当者へ引き継ぐことができること、目標値の決定方法や測定方法が再現できること、を示した。

4) 「健やか親子21(第2次)」のポイントは?

ポイントとして、科学的根拠に基づく母子保健活動を行い、格差の是正を目指すこと、多職種間の横断的連携と地域・学校・職域という縦断的連携を取ること、そして孤立・孤独を防止すること、を示した。

5) 健やか親子とは? 4つの旗

健やかな親子とは何かを研究班で検討し、食育・運動・絆・希望の4つの旗を掲げることとした(今後の検討で変更になる可能性あり)。

第2部 (篠原)

『市区町村母子保健計画の実例と乳幼児健診情報システムの紹介』と題し、実際に母子保健計画を策定された自治体の紹介と、自治体でのデータの利活用の一助となる乳幼児健診情報システムの活用方法について講演した。

実際に母子保健計画を策定された自治体に

関する紹介は、平成28年度研修会で事例発表していただいた4つの市町村のうち、2つのパターンの自治体を抜粋して紹介した。1つは、母子保健計画がすでにあり、その改訂を行った例として宮城県大崎市を、もう1つは、単独の母子保健計画を初めて立てた例として山梨県甲州市を紹介した。

大崎市では、既存の母子保健計画を評価し、そこから新たな課題と重点課題を抽出し、改善策を見出していた。さらに、新たに問題と感じている事項についても新しく取り組んでいく項目として改訂版に盛り込んだ。

甲州市に関しては、これまで母子保健計画が組み込まれていた計画の終了を機に、多様化するニーズや課題に対応するため、行政だけでなく、各関係者および関係機関、地域全体のつながりが大切であり、関わるすべての人が共通認識を持てるように、との思いから単独計画の策定を行った。

乳幼児健診情報システムについては、システムの構造についての説明の他、システムの利点として、地域評価・施策への活用および課題抽出等の根拠資料の提供、健診データを活用した健康支援、市町村と県とのデータ共有が容易、エクセルのため汎用性が高い、コストが低い、等についての講演を行った。

D. 考察

今回の自由集会は、「健やか親子21(第2次)」開始後、2回目の自由集会であった。第1部では、演者の問いかけに対し、自治体関係者では自らの自治体の状況を振り返り、参加者同士で様々な意見交換がなされていた。また、大学関係者等、専門家からの意見も出され、各母子保健関係者間で情報共有ができ、大変有意義な場となった。

今回の自由集会の内容が、今後、各地方自治

体で母子保健計画が策定される際や、更なる母子保健事業の推進の一助となることを期待する。

E. 結論

今年度の自由集会は、第1部「母子保健計画の位置づけと策定方法」、第2部「市区町村母子保健計画の実例と乳幼児健診情報システムの紹介」、そして第3部では質疑応答と、3部構成で実施した。第1部では、母子保健計画を立てる意味や必要性、そして作成過程で大切な考え方や方法を講演した。第2部では、実際に母子保健計画を作成した自治体の例を、2つのパターンで紹介した。そして、第3部の質疑応答では、自治体の方や大学関係者等、各母子保健関係者間の情報共有、意見交換が行われ、有意義な会となった。今後も、継続的に開催していきたい。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし